

奈良県立大学学術研究員 研究成果報告書

研究課題（和文）：

放送アーカイブを利用した地域表象の研究

研究課題（英文）：

Research on regional representations
using broadcast archives

研究代表者名：岡井崇之

学術研究員名（所属先）：西田善行（採用時は
日本大学法学部非常勤講師、現在は、流通経済
大学社会学部准教授）

1. 本研究の概略

本研究は、テレビニュースやドキュメンタリー番組のなかで、これまで地域がどのような形で表象され、どのような言説によって捉えられてきたのかを、テレビアーカイブを活用することにより解明するものである。テレビ番組は放送開始から現在に至るまで様々な地域を映像に収めてきた。こうしたテレビ番組について、放送局の垣根を超えた形で特定の地域に関する表象や言説を収集し、その時代的特性を明らかにする研究は必ずしも多くはない。本研究では複数の地域におけるテレビ番組による表象や言説がどのようになされてきたのか、「地方」を描く歴史的変容の特性を、複数のテレビ番組の分析によって明らかにすることを試みた。

2. 本研究の内容

東日本大震災と福島第一原発事故に関する2011年から2017年までのニュース番組における表象や言説の収集や研究を行った（研究成果②）。この研究では福島県南相馬市とその住人がどのような集合的、空間的、時間的な関わりの中に位置づけられるかを明らかにした。まず南相馬の住人は「被災者」あるいは「原発被害者」として東北や福島の人々と結び付けられること。それはキャスターやナレーターの語りや映像による結合によって行われていることが明らかになった。また空間的に福島第一原発との地理的な関係が地図などで常に示される一方で、時間的には「止まったまま」の場として表象され続けてきたことを

明らかにした。

これに関連してこうしたテレビのニュース番組やドキュメンタリー番組が、いかに教育の場で利用されてこなかったのか、そしてどのような形で教えることが可能なのかについて検討を行った（研究成果③）。検討の際にはNIEという形で新聞を利用して行われる諸教育と、もっぱら教育番組という限られた利用となるテレビを比較し、アーカイブの充実と共有によって新聞同様に、そしてインターネットなども含めた諸メディアを複合的に利用した真の意味での「ニュース・イン・エデュケーション」の必要性を訴えた。

こうしたテレビアーカイブを利用した研究成果として、日本テレビ系列各局が制作している『NNNドキュメント』について、熊本県にある熊本県民テレビが制作した水俣病に関するドキュメンタリーを中心に、各地域で制作された環境問題や公害問題の流れと傾向を分析した（研究成果①）。

以上の研究成果は奈良県立大学の受け入れ教員である岡井崇之教授の協力と適切なアドバイスを受けて行われた。なお、指導は遠隔地でもあることからオンラインでの指導となった。

3. 本研究で明らかにしたこと

本研究を通じて明らかになった知見はいくつか挙げられるが、特に挙げておきたいのは、研究成果②におけるニュースにおける「空間」の特性、また「空間」と「時間」の関係である。これは、カタストロフに見舞われた被災地を事例としているが、メディアが地域を表象するときどのように語られ、地域のイメージや物語がつくられるかという大きなテーマについて考えるうえでも有効な視座だと考える。

西田は現在、専任教員として他大学に所属しているが、今後、貴学において、放送アーカイブを利用した地域研究やその教育への応用が必要になれば、岡井教授と連携を行って協力をしたいと考えている。

4. 本研究の諸成果

〔セミナー、シンポジウム等〕
なし

〔図書〕

- ①「[公害] 「レイト・カマー」から見た水俣」
丹羽美之編『NNN ドキュメントクロニクル
1970-2019』東京大学出版会、p83-98、2020 年

〔雑誌論文〕

- ②「テレビニュースにおける原発震災被災地の『定位』をめぐって―夜のキャスターニュースのなかの『南相馬』『地域創造学研究』第 53 号、p69-99、2022 年

- ③「テレビニュースの大学教育利用の実践―NIE との比較から」『ジャーナリズム&メディア』第 16 号、p27-33、2021 年

〔学会発表〕

なし

〔その他〕

なし

5. 外部資金（科研費を含む）事業への申請予定等の今後の展開について

本研究に関して 2019 年度の公益信託高橋信三記念放送文化振興基金への助成申請を行った。また研究成果をもとに 2020 年度の科学研究費助成金への申請も行ったが、いずれも採用に至らなかった。